



世界に希望を生み出そう

2023-24年度
国際ロータリー会長

ゴードン R. マッキナリー

第2600地区ガバナー 折井 正明

国際ロータリー第2600地区 上田六文銭ロータリークラブ Rokumonsen Rotary Club

【事務局】〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル3F
TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002 <http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
《例会日》毎週火曜日12:30~13:30 《例会場》上田東急REIホテル2F 《創立》1997年2月18日

●会長 清水 一典 ●幹事 水野 泰雄 ●出席・会報・ニコBOX委員長 吉田 穰 ●副委員長 三浦 道也 ●委員 斉藤 仁／青木 丈典

例会日誌

□司 会 宮原 宏一君
□開会点鐘 清水 一典君
□R ソング 「我等の生業」

□ゲ ス ト

学校法人 上田煌桜学園

さくら国際高等学校

理事長 荒井 裕司様
校 長 土屋 範芳様
副校長 奥谷 純一様



□ラッキー賞

提供者 中澤信敏君

「千葉土産」

斉藤 仁君



会長挨拶



清水 一典君

今日は、素敵なゲストの方をお呼びしております。ゲストスピーチに出来るだけ時間を取りたいと思いますので、ご紹介を兼ねて私のご挨拶とさせていただきます。本日のゲストは、学校法人上田煌桜学園（さくら国際高等学校）創立者であります理事長の荒井祐司様です。荒井様は、地元上田市出身で18年前に旧西塩田小学校の校舎を再利用して主に不登校の子供たちが通える高校をつくられました。設立当初から私も微力ですがお手伝いをさせていただいております。塩田地区は小学校・中学校・短大・4年制大学がありますが、

高校がありませんでしたので高校が出来ると聞いて地域の活性化にもなるのではと思います。うれしかったことを覚えております。高校設立にあたり私たち地元も何か応援できないかと考え、ご家庭の事情（経済的に）で学校へ行けない子供たちがいるということを知り、有志で奨学金を集めました。今も毎年数名の生徒さんに奨学金を出しております。この活動をしていて自分たちの活動が本当に微力だということを感じています。それは、奨学金を求める生徒さん皆さんにお渡し出来ないことです。皆さん、よろしければ一度さくら高校に見学に来て下さい。他校で不登校だった子や引きこもりだった子が少しずつ生き生きしてくる姿を見ると、将来の社会人達に応援したくなります。荒井様は、不登校や引きこもりの子供の家へ自ら出向く「夜の家庭訪問」を20年以上続けて1,000人以上（2018年）の子供と関わり、東京国際学園高等部や「登校拒否の子供の進路を考える会」を設立して社会復帰を援けるなど、不登校や引きこもりに苦しむ多くの親子を救ってきました。本日はご多忙の中、快くゲストスピーチをお引き受けくださいました荒井祐司様、ありがとうございます。そして、よろしくお願いいたします。

幹事報告



水野 泰雄君

1. よねやま奨学会より
・ハイライトよねやま 280号
2. 国連 UNHDR 協会より
・難民緊急レポート及び援助活動のお願い

出席・会報・ニコ BOX 報告



青木 丈典君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	23	5	0	78.26%
前々回	25	5	1	84.00%

清水一典君 荒井理事長、土屋校長先生、奥谷副校長先生、本日はよろしくお願いいたします。

水野泰雄君 梅雨明け暑い日が続きます！今日はさくら国際高校様ようこそ。

中澤信敏君 さくら国際高校の皆様本日はよろしくお願いいたします。

斉藤恵理子君 さくら国際高校の皆様本日はよろしくお願いいたします。

生川秀樹君 荒井理事長、土屋校長先生、奥谷副校長先生本日はよろしくお願いいたします。

吉田 穰君 さくら国際高等学校荒井理事長様、土屋校長様、本日はよろしくお願いいたします。お話し楽しみにしています。

青木丈典君 荒井理事長、土屋先生、奥谷先生本日はよろしくお願いいたします。

北村久文君 上田西決勝進出、あと 1 勝です。
飯島俊勝君 兎に角暑いです。皆様ご自愛下さい。

宮原宏一君 暑い！！上田の夏祭りで暑さをぶっとばそう。

肥田野秀知君 笠原 一洋君 小嶋 修一君
松澤 一志君 西澤 尚夫君 山崎 芳雄君
斉藤 仁君

ニコニコ BOX 喜投額 7/25 18,000 円
今年度累計 82,000 円 11.7% (予算目標 70 万)

ゲストスピーチ

子どもたちはなぜ不登校になるのか？
=さくら国際高等学校での対応とは？=



学校法人上田煌桜学園
さくら国際高等学校
理事長
学園長 荒井 裕司様

理事長・学園長の荒井です。本日はこのような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。私は、20 代の頃、不登校の子どもたちと知り合う機会がありまして、それ以来 40 数年間、様々な子どもたちと関わって参りました。

不登校の現状

今、不登校といわれる小・中学生は 244,940 人であり、9 年連続で増加し、過去最多となっている〈令和 3 年度文部科学省資料〉生徒数は、昭和 60 年代のピーク時に比べると約 3 分の 2 なのに不登校はほとんど減っていません。実質は 1.5 倍になっています。さらに不登校の長期化や年長化が大きな問題となり、ひきこもりは 130 万人とも言われています。

最近では発達障害のこどもたちの増加や SNS の問題と複雑にからまって深刻さを増しています。

子どもたちは、なぜ不登校になるのか

- ① 思春期に重いテーマを自分に問い詰める
・人は何のために生きていくのか・なぜ学校に行かなければならないのか・なぜ勉強するのか・大人が信用できない・・・等々
- ② 自分が重いテーマを抱えるきっかけになる小さな出来事が必ずある。
・学校内でのトラブル・いじめ・仲間はずれ・教師とのトラブル・勉強についていけない・身内や大切な人の死・社会不正義を知ってしまった等
- ③ 思いテーマを抱えて自分は生きていくのかと気づいてしまう。→それが不登校につながってしまう

不登校支援の考え方

→支援する大人が価値観を見直そう

- ・人間は大人も子どもも不完全
- ・人間は多面的で多面体
- ・いいところを見出し、それに光を当てる。
- ・心の流れや動きに寄り添っていく。
- ・目指すところは『子どもを元気にすること』

さくら国際高校での支援

- ・個別プログラムを作る
- ・それぞれを生かし、それぞれが成長する
- ・地域と積極的に関わる
- ・国際交流で大きく成長する子どもたち (ラオス訪問等)
- ・植物、音楽、芸術と関わる機会を増やす
- ・得意なこと、好きなことを一緒に探し伸ばす

8 月 8 日例会予定

会員卓話 青木 丈典君